

公開実用平成 2-5781

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

平2-5781

⑬ Int. Cl. *

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)1月16日

G 09 F 8/00
G 03 B 21/132
27/52
G 03 G 15/04
G 09 G 3/18

3 6 0

1 1 9

6422-2C
8004-2H
7610-2H
8607-2H
8621-5C

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 画像投影装置

⑯ 実 願 昭63-83108

⑰ 出 願 昭63(1988)6月22日

⑱ 考 案 者 坂 本 政 恵 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
⑲ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号
⑳ 代 理 人 弁理士 内 原 晋

明 細 書

考 案 の 名 称

画 像 投 影 装 置

実 用 新 案 登 録 請 求 の 範 囲

照射された書画原稿からの光を光電変換しイメージ情報を出力する光電変換器を備えたイメージ入力装置と、光源からの放射光を前記イメージ情報に応じて断続する液晶板を駆動する信号処理器を備えたイメージ出力装置とを有することを特徴とする画像投影装置。

考 案 の 詳 細 な 説 明

〔 産 業 上 の 利 用 分 野 〕

本考案は画像投影装置に関し、特に透明フィルムまたは普通紙に描かれた書画をスクリーンに投影する画像投影装置に関する。

〔 従 来 の 技 術 〕

従来の画像投影装置は、オーバヘッドプロジェ

クタ（以下ＯＨＰと記す）は、ＯＨＰフィルムに書かれた情報を光学系の構成のみによってスクリーンに投影するようになっていた。

〔考案が解決しようとする課題〕

上述した従来の画像投影装置では、説明者がＯＨＰの脇に立つか、または別人がＯＨＰの脇に居てフィルムの入れ替えを行うかしなければならず、スクリーンを見る人の位置によってＯＨＰが邪魔になるため無駄な場所ができるという欠点がある。

〔課題を解決するための手段〕

本考案の画像投影装置は照射された書画原稿からの光を光電変換しイメージ情報を出力する光電変換器を備えたイメージ入力装置と、光源からの放射光を前記イメージ情報に応じて断続する液晶板を駆動する信号処理器を備えたイメージ出力装置とを有している。

〔実施例〕

次に本考案について図面を参照して説明する。
第１図は本考案の一実施例のブロック図である。
イメージ入力装置８は、光源１３からの放射光

3をOHPフィルム1を通してミラー2に照射する。

ミラー2からの反射した反射光5は、光学系を通りフォーカス調整をされた後光电変換器7に入る。

光电変換器7によって光电交換された電気信号は、延長コード9によって遠隔に置かれたイメージ出力装置10に入り、信号処理器11によって処理し液晶板12を駆動する。

液晶板12は、光源13'からの放射光を信号処理器11によってイメージ情報に応じて断続した投影光15が光学系14'を通してスクリーン16に元のOHPに描かれた書画を投影する。

〔考案の効果〕

以上説明したように本考案は、書画原稿を読み取ったイメージ情報を出力するイメージ入力装置の離れた場所に置かれたイメージ出力装置が光源からの光をイメージ情報に応じて断続させる液晶板と光学系によってスクリーンに投影することにより、スクリーンを見る人の邪魔にならない場所



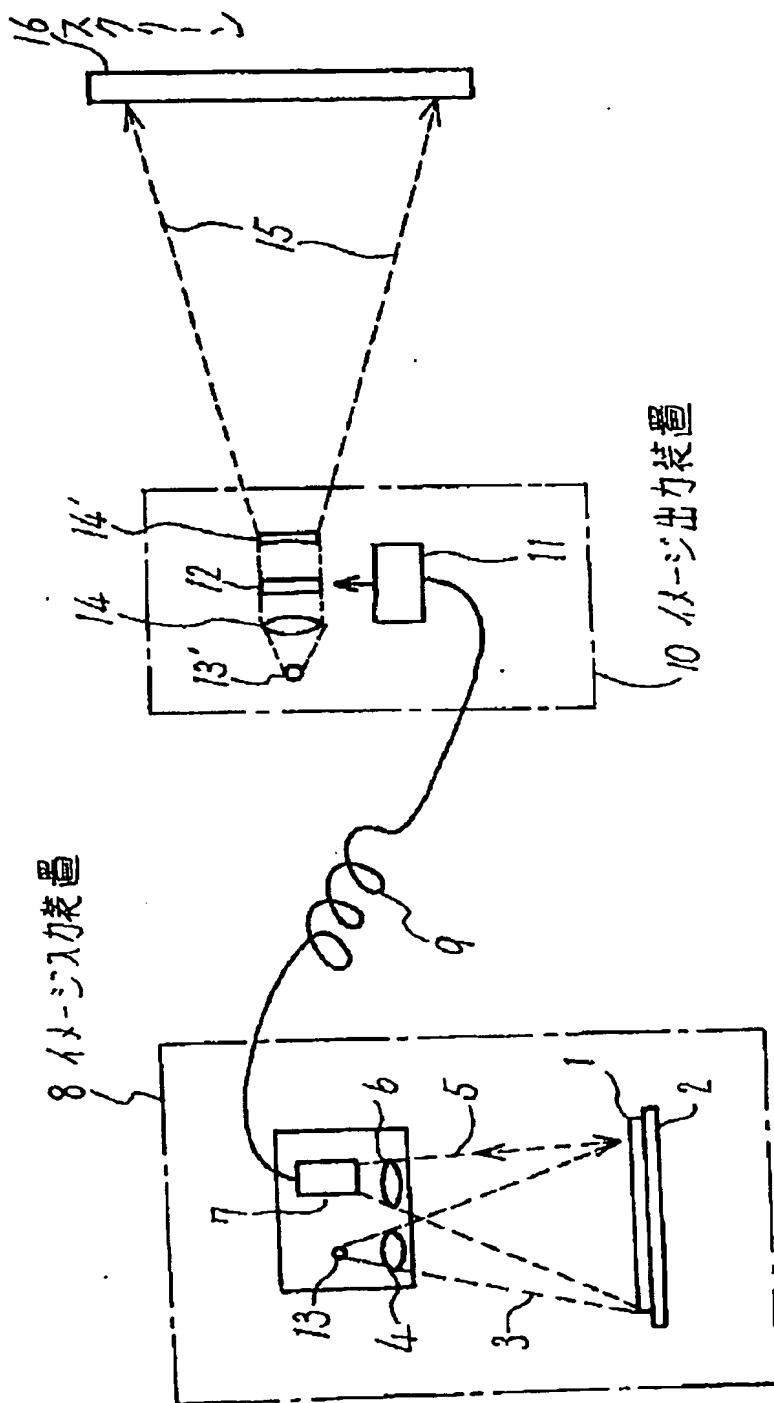
でOHPフィルムの説明をすることができるという効果がある。

図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例のブロック図である。

1…OHPフィルム、2…ミラー、3…放射光、4, 6, 14…光学系、5…反射光、7…光電変換器、8…イメージ入力装置、9…電気信号延長コード、10…イメージ出力装置、11…信号処理器、12…液晶表示板、13, 13'…光源、15…投影光、16…スクリーン。

代理人 弁理士 内 原 晋



図

1

表

10

特開2-5781